

札幌市自立支援協議会 子ども部会ニュース

第5号(2017年3月)
発行 札幌市自立支援協議会子ども部会 事務局
連絡先
〒007-0836
札幌市東区北36条東9丁目1-1
TEL:011-776-6856 FAX:011-776-6857
E-mail:muginoko@muginoko.com

今年度の子ども部会のまとめ

子ども部会も5年目を迎えました。今年度は、放課後等デイサービスの質の向上を図るために、学童期の研修が少ないことから、学童期に特化したセミナーを開催しました。とても好評だったため、年2回行いました。教育と福祉、医療の連携会議では、放課後等デイサービスとの連携や理解の促進から、放課後等デイサービスの参観日を今年度は各区で行うことが出来ました。今後は、各地域で日常的に連携出来るネットワークを構築していきます。全体研修会では、児童、思春期の子どもと家族への支援について、札幌市子ども発達支援総合センター長の上田先生からお話して頂きました。

医ケア児について、国も支援の推進を進めていますが、実態は、地域での受け入れ先がまだまだ少ない等の状態です。そこで、医ケア児のプロジェクトを立ち上げて、支援の場の広がりを推進していきます。

次年度は、各区における地域子ども部会の活動の充実と市子ども部会との連携強化。そして、まだ、子ども部会のない地域への設立促進を行い、地域における連携の充実を目指していきます。(部会長 北川聡子)

「教育・福祉・医療の連携に係る課題検討会からの報告」

「放課後等デイサービス参観日」は教育と福祉、医療の連携を進めるために昨年度は試行で市内3区5事業所で行われました。医療的ケアのニーズがあるお子さんを受け入れてる事業所にも見学の受け入れをお願いするなど今年度は市内全区に規模を拡大しました。15の事業所にご協力1/23～2/20の期間で、のべ63名の方に参加いただいております。終了後には連携の意義や必要性を感じるなど教育関係者を中心に多くの肯定的な感想やご意見をいただきました。有期限のプロジェクトですので次年度で終了となりますが、各地域での日常的な連携の礎となるよう平成29年度も実施する予定です。(子ども部会委員：青木)



「社会的養護の必要な子どもを受け入れている 里親・入所施設等関係職員の意見交換会」

平成28年度の社会的養護の研修会は北海道医療大学の鈴木幸雄先生を講師にお迎えして「社会的養護の将来像と課題～知的障がい児入所施設の児童養護から」をテーマに、去る平成28年12月19日にご講演していただきました。

先生は児童養護現場での実践経験があり、制度政策論や施策動向にとどまらず、愛着障害にもふれられて現場実践に非常に有意義な研修内容となりました。

研修に参加された方々からたくさんのご好評をいただき、次の研修会は今回の内容をふまえて愛着障害に関する事例検証を企画したいと考えています。

[事務局員：河岸(社会的養護G担当)]



「子ども発達支援者支援力向上 セミナー」

昨今、児童期の子どもへの支援や家族支援、機関連携の必要性や、ガイドライン等が提唱され、支援内容の質が問われている現状です。子ども部会では、今年度初めて「発達支援を必要とする子どもの課題や自立に必要な支援方法について学び、実践内容の向上や支援力のスキルアップ、連携の充実」を目指しセミナーを開催しました。セミナーは、6月と2月に2回(3日間連続)開催し、約90名の参加者が、講義、ワークショップで学び、修了書を受け取りました。参加者からは好評を得て、次年度も同様に企画、開催したいと考えています。(事務局長：金澤)

「医ケア児検討会」(加藤事務局員)

厚労省は地方公共団体に対し「医療的ケア児が必要な支援を円滑に受けることができるよう、保健、医療、福祉等の各関連分野の支援を行う機関との連絡調整を行うための体制整備に関する努力義務」を規定し、加えて「保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進について」関係府省部局長連名で発出し、連携体制の構築を推進することとしました。これを受け札幌の子ども部会でも医ケアのある子どもの発達・生活等について、その困難さや支援における課題について話し合うチームを発足しました。

すでに「重複プロジェクト」がまちの課題整理プロジェクトとして自立支援協議会の中で医ケアのある児の事も包括しながら検討されてきていますが、子ども部会としても更なる連携の強化や支援の場の広がりに向けて検討していくこととなります。第1回目はチーム発足前の打ち合わせという事で子ども部会委員である、真鍋さん・射場さん・伊西さん(稲生会の高波さんもオブザーバー参加していただきました)と事務局とで、検討内容整理のための意見交換を行いました。保育所での受け入れの歴史や親として精神的サポートが重要だった経験談、医療と福祉をつなぐ実践など、この時間だけでも十分に学びになるのでは?と思うくらいの内容でした。今後、札幌市の方にも入って頂きながら課題整理と研修などの企画を行っていく予定となっています。

〔事務局員：加藤(医ケアグループ担当)〕

「子ども部会全体研修会」

平成28年11月16日(水) 18:00~20:00 WEST19講堂にて、第5回となる全体研修会を札幌市児童発達支援センター会議と共催で行いました。前半の講演は「児童期思春期の子どもへの医療的支援」というテーマで札幌市こども発達支援総合センターセンター長の上田敏彦氏に、学齢期の発達に関する捉え方や支援の中で大事にしたいこと、保護者支援に関する視点などについてご講演いただきました。後半は教育・相談支援・施設入所支援・通所支援・保護者の立場の方々にご登壇いただきシンポジウム形式で現状や今後の課題について提案を受けました。約200名の参加者のうち、例年に比べ教育分野の参加者が多く、継続していく中でテーマによって参加分野の傾向が大きく変わる研修会であると実感しています。

(事務局員：寺田)



「地域部会の紹介(白石区)」

平成26年7月に設立され、年間3回程度の研修会を開催しています。現在、10名の世話人で、研修の企画・運営を行っています。世話人の職種は、児童発達支援、放課後等デイ、乳児院、保育所、特別支援学校、自立訓練事業、相談室、親の会、保護者です。

平成28年度は、7月に小・中学校教員を対象とした「教育と福祉の交流会～地域の放課後等デイサービスと相談支援事業所をもっと知ろう」、10月に保育所・幼稚園・児童デイ職員を対象とした「乳幼児健診から関係機関への連携を考える」研修会、3月に児童デイの管理者・児発管を対象とした「白石区子ども部会の研修についての意見交換会」を開催しました。(白石区子ども部会：斎藤)

「地域部会の紹介(東区)」

東区自立支援協議会子ども部会では、今年度が初めて一年間を通じた活動となりました。年間のテーマを「小さな地域づくり」と定めて、全四回の内、二回を“ウェルトーク”と題して子どもに関わる各機関職員や保護者の交流会を行いました。

第一回目「児童発達支援・放課後等デイサービスの今」。第二回目「幼稚園・保育所での子どもの姿」と題して、現職員に登壇いただきインタビュー形式で現状を伝えてもらいました。各回とも約80名の参加があり参加者からは好評を得られました。実際に連携につながる事例も聞かれ、「小さな地域づくり」が実践されました。

次年度も活発な活動をしていきます。興味のある方は、是非ともご参加ください。(東区子ども部会：中山)

